

## 平成23年磐城国道事務所十大ニュース

- 1 東日本大震災により国道6号、49号にも甚大な被害（3月）**
  - ・ 3月11日に発生した東日本大震災により、国道6号、49号においても段差、陥没、津波冠水によるガレキ堆積等の被害が多数発生し、各所で全面通行止めを余儀なくされた。
- 2 国道6号四倉町～久之浜町が復旧し、原発30km圏内を除き全線通行可能に（4月）**
  - ・ 車、船を含む大量のガレキが堆積し、道路沿い斜面の崩落の恐れもあった区間（延長約4km）を懸命な復旧活動で4月10日に交通解放。原発30km圏内を除き全線通行可能となった。
- 3 原発30km圏内の国道6号、避難住民の一時帰宅を前に応急復旧を完了（5月）**
  - ・ 4月下旬から原発30km圏内の国道6号の応急復旧に着手。放射線環境下で手探り状態での工事となったが、5月9日に応急復旧を終え、全線通行可（一部迂回路利用を含む）とした。
- 4 国道49号北好間改良がH23新規事業化（1～4月）**
  - ・ 計画段階評価導入にあたり、国道49号北好間改良が先行的に社会資本整備審議会道路分科会東北地方小委員会等で議論され、東北管内唯一の一般二次改築事業としてH23新規事業化。
- 5 阿武隈東道路の松ヶ房トンネル、震災後初めてのトンネル貫通（7月）**
  - ・ 東日本大震災後、復旧工事を優先するため一時休止していた松ヶ房トンネル工事は、5月に再開して鋭意掘削を進め、7月16日に貫通。震災後初めてのトンネル貫通となった。
- 6 復興を支援する東北中央自動車道、短期間でルートを決し事業化（7～11月）**
  - ・ 震災被害の甚大な太平洋沿岸と中通りを結ぶ東北中央自動車道を復興支援道路と位置づけて、わずか2ヶ月でルート決定手続きを完了させ、相馬福島道路として第三次補正予算で事業化。
- 7 東北中央自動車道（相馬市～福島市）で復興道路着工式を挙行（11月）**
  - ・ 11月26日、復興支援道路である東北中央道の早期完成と被災地の1日も早い復興の願いを込めて、室井政務官、佐藤知事ほかの御臨席のもと相馬市山上地内で復興道路着工式を挙行。
- 8 台風による大雨のため、国道49号で3時間余りにわたって通行規制を実施（9月）**
  - ・ 台風15号による大雨で連続雨量が200mmを越え、国道49号いわき市好間町～三和町（延長4.5km）で3時間余りにわたり事前通行規制を実施。平成19年7月以来4年ぶりの実施。
- 9 相馬バイパス（一部）を約2ヶ月間通行止めにして集中的に復旧を実施（11～12月）**
  - ・ 震災で橋梁の伸縮装置等が大きく損傷した相馬バイパスで、交通混雑を極力短くするため約2ヶ月間通行止めにして集中的に復旧工事を実施。当初予定より1週間早い交通解放を実現。
- 10 平バイパスの一部4車線化により渋滞が緩和（1月）**
  - ・ 国道49号平バイパスの一部区間（いわき市上荒川地内の延長800m）が4車線化供用され、上矢田交差点を過ぎて常磐バイパスまで続いていた渋滞の車列が大幅に緩和された。